

遊びの中の学びと小学校の教科等とのつながり ー「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から見取るー

河野 共 芳 [鹿児島大学教育学部附属幼稚園]

河津 花 奈 [鹿児島大学教育学部附属幼稚園]

Learning through play and its connection with the learning at elementary school: Observations from "A desire to provide appropriate education to children up through the end of early childhood"

KAWANO Tomoka and KAWADU Kana

キーワード：保育、遊び、学び、教科

1. はじめに

1.1. 幼稚園教育要領の改訂について

幼稚園の教育は、幼稚園教育要領に基づいて行われており、幼稚園教育要領は、平成30年に改訂された。改訂の基本方針は大きく、①幼稚園教育において育みたい資質・能力の明確化、②小学校教育との円滑な接続、③現代の諸課題を踏まえた教育内容の見直し、の3点が挙げられる。その中で挙げられた「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力は、幼稚園だけでなく、小学校・中学校・高等学校までを貫くものとして示された。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は10個示されたが、これらは、どれか1つを取りあげて、その姿についてだけ指導するものではなく、遊びを通し全ての姿が関わり合いながら指導するものである。また、この10個の姿は到達目標ではないため、できた・できないといった評価をするものではなく、すべての教師が同じ方向性で保育を行っていくための方向目標として示された。これらの姿を明確にすることで、小学校教諭の幼児理解が進み、小学校との円滑な接続を進めやすくしている。

これまでに述べた資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼稚園教育要領だけでなく、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領でも同じように示されている。すべての幼児教育に共通して示されることで、小学校は、スタートカリキュラムなど、より円滑な接続を行うことができるとされている。

1.2. 本園について

本園は、鹿児島大学教育学部の構内にあり、同じ教育学部内に小学校と中学校がある。鹿児島市の中心部に位置しているが、緑多い園庭をもつ園であり、子どもたちは四季折々の自然と関わりながら過ごしている。3歳児・4歳児・5歳児と1クラスずつで構成され、担任・副担任に加え、養護教諭を含む全職員で、毎日保育の振り返りを行い、全職員での共通理解のもと、保育を行っている。

本園の教育目標は、「いっぱい遊び いっぱい創り 豊かな感性と心情を育む」としている。1年間を5つの期に分け、それぞれの時期に3つのねらいを定め、保育を行っている。1つ目は、自分自身の知識や感性を深めることに関するもの、2つ目は、人やものへの広がりに関するもの、3つ目は、自然との関わりである。自由保育の中で子どもが主体的に自分の好きな遊びを行う保育を中心に行っており、クラスの友達だけでなく他の学年の園児と関わり合う姿も多く見られる。他学年とも関わる中で、年上の友達のしていることを真似てみたり、年下の友達を思いやる気持ちをもったりすることができる。

2. 内容

本報告では、子どもたちが園内で行っている遊びの中から、「砂や水を使った遊び」と「お店屋さんごっこ」の遊びを取り上げ、その事例から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見取る。その際、5歳児だけでなく、3歳児であっても、3歳児なりの10の姿が見られると考え、3歳児の事例も取り上げることとした。そして、そうした遊びは、小学校の教科等とどのようなつながりが見られるのか、学習指導要領からつながりがあると考えた内容についてまとめた。同じ種類の遊びを取り上げることで、小学校の教科等とのつながりも見やすくなり、3歳児から5歳児、そして小学校へと学びがつながっていることが分かりやすいと考えた。1つの遊びが1つの教科とつながるわけではなく、多くの教科等とのかかわりが見られるため、より関わりが深いと考えた教科等は網掛けで示した。

3. 砂や水を使った遊びの実践

3.1. 3歳児事例「あれ、バナナない。」（3歳4月～5月）

入園し、幼稚園を楽しみにして、元気に登園する子ども、不安を抱え、保護者と離れがたい子どもなど、さまざまな様子が新年度がスタートした。教師は、幼稚園は楽しく安心できる場所であることが分かるように、子どもたちが、新しい環境に触れる姿を見守り、一緒に遊びに加わりながら、子ども一人一人の思いに応えるように声を掛けていった。

自分の好きな遊びをする中で、保育室の目の前にある砂場に興味をもつ子どもが多く、料理をつくったり、工事ごっこを楽しんだりする姿が見られた。実際の子どもの姿を表1に、それらの子どもの姿から見られた「幼児期のおわりまでに育ってほしい姿」を表2に示した。

表1 3歳児砂や水を使った遊びの実践

(4月)
○ 砂場でA児が教師へ料理を持って来る姿を見て、他の子どもたちも皿に砂を盛って、教師のもとに持ってきた。テーブルには、様々な容器に入れた多くの料理が並んだ。
A児「どうぞ。」(お皿に砂を盛って、教師に持ってくる。)
教師「ありがとうございます。ごちそうさまでした。また、お願いします。」
B児「どうぞ。お子様ランチです。」
C児「お子様ランチ。」(うれしそうに自分の方に引き寄せ、食べようとする。)

B児「だめ！先生の。」
 教師「先生につくってくれたんだね。いただきます。Bちゃん、おいしいよ。」
 B児「うん、またつくってくる。」(砂場に行く。)
 教師「じゃあ、先生もつくろうかな。」(星形の容器に入れられた砂をひっくり返して、型抜きをする。)
 C児「わー、星さん。星さん。」
 ○ C児は、バナナ型の容器に砂を入れて戻ってきた。
 教師「Cちゃんは、バナナをつくるんだね。」
 C児(教師と同じように容器をひっくり返して、型抜きをする。」「あれっ？バナナ、ない。」
 ○ C児は、さらさらの砂を入れたため、型抜きができなかった。C児は、気にする様子はなく、遊びを進めた。
 (5月)
 ○ 砂場では、新しく準備された砂場の道具を使って、遊ぶ子どもたちの姿があった。
 教師「先生もやってみよう。」(型抜きに砂を入れ、皿の上でひっくり返し、周りの子どもたちに見せる。)
 D児「Dも(やる。)」(教師と同じように型抜きに砂を入れ、型抜きを砂の上に素早くひっくり返す。)
 「できた。先生、見て。」
 教師「すごいね。これは、何かな？」
 D児「プリン。」
 教師「おいしそうだね。じゃあ、先生は、もっと大きなものをつくろう。」(ふるいに砂を入れ、型抜きをする。)
 D児「あっ、ケーキ！」
 ○ その後も砂でいろいろな形を型抜きして、楽しんだ。

表1の子どもの姿から見られた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を表2に示した。3歳児は、教師に見せたりやりとりをしたりするなど、教師と子どもでの関わりが多く見られた。興味をもって自分から砂や道具に関わり、教師の真似をして型抜きをしようとしたりするなど、経験を重ねていった。そうした経験の中で、友達存在に気付いたり、型抜きがきれいにできるようになったりと、3歳児なりの「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が見られた。

表2 3歳児の砂や水を使った遊びの中で見られた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
教師の様子を見て、素早く型抜きをひっくり返し、ケーキをつくる。	ひっくり返して型抜きができたことを喜び、もっとつくろうとする。	教師を通して友達存在を知り、友達と同じようにごちそうをつくる。	教師を喜ばせようと、教師のためにごちそうをつくってもってくる。	自分が生活の中で食べたことのある食べ物をつくる。
思考力の芽生え	自然との関わり	言葉による伝え合い	数量や文字、図形や標識等への関心感覚	豊かな感性と表現
教師の真似をしたものの、同じようにならず、不思議に思う。	砂に直接触れ、天気や水分量による感触の違いを感じる。	教師に「どうぞ」と声を掛けたり、できたことを教師に伝えたりする。	様々な形の型抜きを使ったり、型抜きの形の大きさで見立てを変えたりする。	型抜きを使って砂を様々な食べ物に見立てる

3.2. 5歳児事例「樋をつなげたい」（5歳5月）

子どもたちは砂場で、自分の考えを伝え合い、友達とイメージを共有させながら、山や川をつくって遊んでいた。教師は、更に子どもたちは砂場で遊びを広げていくためにどうしたらよいか考え、半円状の雨樋を用意した。すると、子どもたちは、樋をつなげてウォータースライダーのように流そうと考えた。実際の子どもの姿を表3に、その中で見られた「幼児期に育ってほしい姿」を表4にまとめた。5歳の子どもたちは、砂場で道具や水を使いながら自分たちで遊びを考え進めていく姿が見られた。樋を使うと水が流れやすいことを感じている子どもたちは、樋を手にするするとすぐに、樋が傾斜になるようにするにはどうしたらよいか考え始めた。樋の下を支えるものとして、バケツやトンネルなどを使い、傾斜になるようにした。また、遊びを進める中で、友達と協力したり、言葉でやりとりしたりするなどの姿が見られた。

表3 5歳児の砂や水を使った遊びの実際

○ 樋を子どもたちに見せると、子どもたちは早速、樋を砂場へ運び、水を流し始めた。2人が2本の樋をつなげようとしていた。 A児「誰かちょっとそっち持って。」 B児「いいよー。」
○ A児は一本の端を持ち、B児がもう一本の端を持ち、樋と樋をはめた。
○ C児は、丸椅子を持ってきて、接続部分の下に置いた。 教師「そっか。樋が落ちないようにこの椅子で支えているんだ。なるほどね。」 C児「ここも。ほら。」
○ C児は、傾斜がついた別の樋の下に置いた低いトンネルを指差した。 教師「ほんとだ。ここにも。椅子より低いものの方がいいからトンネルにしたんだね。」
○ A児たちは、つなげた樋に水を流し始めた。樋の上にペットボトルの蓋や砂を入れ、それらが流れていく様子を見て、何度も流すことを繰り返した。

表4 5歳児の砂や水を使った遊びの中で見られた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
大きな樋を運んだり、樋をうまくつなげたりする。	自分たちがつくりたいもののイメージを共有し、最後まで完成させる。	友達と協力しながら遊びを進めることを楽しむ。	困っている友達を快く手伝い、道具を一緒に使う。	プールのウォータースライダーや川などと、樋を結びつけて考え、砂場の中でそれを再現しようとする。
思考力の芽生え	自然との関わり	言葉による伝え合い	数量や文字、図形や標識等への関心・感覚	豊かな感性と表現
どうしたらうまく傾斜がつくか考え、道具を使って工夫する。	砂や水に触りながら感触を楽しんだり、流れ方の違いに気付いたりする。	手伝ってほしいことを、自分から声を掛けて友達に頼む。	樋の支えにどの道具を使ったらいいか、道具の高さを考えながら選ぶ。	どんな形のコースにするか、完成のイメージを共有しながら樋を組み合わせる。

3.3. 幼稚園の砂や水を使った遊びと各教科等とのつながり

3.1.と 3.2.で示した幼稚園の砂や水を使った遊びは、小学校の各教科等とどのようにつながりがあるのか、次の表5に示した。幼稚園における砂や水を使った遊びは、主に、小学校の生活科の「自然や物を使った遊び」、理科の「雨水の行方と地面の様子(4年)」、「流れる水の働きと土地の変化(5年)」の学習へとつながっていくと考えられる。また、友達とコースや山、トンネルなどの全体像を共有し、それを形にするために話し合ったり、協力してつくりあげたりすることが、よりよい人間関係の形成の基礎を養うものと考えられる。更には、自分のつくりたいものを表現する楽しさや生活経験を活かした科学的な見方・考え方にもつながっていると考えられ、幼稚園での遊びの充実を図ることが大切だと考える。

表5 幼稚園の砂や水を使った遊びと小学校の各教科等とのつながり

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の働きに気付くこと ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うこと ・語彙を豊かにすること ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること ・身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと ・相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること ・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域や市区町村の様子(3年) ・人々の健康や生活環境を支える事業(4年) ・自然災害から人々を守る活動(4年) ・県内の特色ある地域の様子(4年) ・我が国の国土の自然環境と国民生活との関連(5年)
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・数の構成と表し方 ・数の構成と表し方 ・加法及び減法 ・身の回りにあるものの形 ・身の回りのものの大きさ ・時刻と時間 ・数量の整理 ・量の単位と測定 ・データの分析
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・物と重さ(3年) ・光と音の性質(3年) ・磁石の性質(3年) ・太陽と地面の様子(3年) ・空気と水の性質(4年) ・土地のつくりと変化(6年) ・雨水の行方と地面の様子(4年) <p>雨水の行方と地面の様子について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、雨水の流れ方やしみ込み方と地面の傾きや土の粒の大きさとの関係について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流れる水の働きと土地の変化(5年) <p>流れる水の働きについて追究する中で、流れる水の働きと土地の変化との関係について予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること</p>
生活	<p>(3) 地域と生活 (4) 公共物や公共施設の利用 (5) 季節の変化と生活</p> <p>(6) 自然や物を使った遊び</p> <p>身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。</p> <p>(8) 生活や出来事の伝え合い</p>
図画工作	<p>A 表現 ・造形遊び</p> <p>造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を行い、思い付くことや、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えること</p> <p>・絵や立体、工作に表す活動 B鑑賞 ・身の回りの作品などを鑑賞する</p>
音楽	A 表現 ・歌唱 ・音楽づくり
体育	A 体づくりの運動遊び B 器械・器具を使つての運動遊び D 水遊び
特別活動	<p>(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全</p> <p>ア 基本的な生活習慣の形成</p> <p>イ よりよい人間関係の形成</p> <p>学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること</p> <p>ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成</p> <p>(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現</p> <p>イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解</p> <p>ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用</p>
道徳	<p>A 主として自分自身に関すること</p> <p>[善悪の判断、自律、自由と責任][節度、節制][希望と勇気、努力と強い意志]</p> <p>B 主として人との関わりに関すること</p> <p>[親切、思いやり][友情、信頼][相互理解、寛容]</p> <p>C 主として集団や社会との関わりに関すること</p> <p>[規則の尊重][勤労、公共の精神][伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度]</p> <p>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</p> <p>[感動、畏敬の念]</p>

4. お店屋さんごっこの実際

4.1. 事例「お寿司屋さんへようこそ」（7月）

年長の子ども達が、寿司屋を開くことになり、年下の友達を誘ってもてなしていた。実際の子ども達の様子を表6に、その中で見られた幼児期のおわりまでに育ってほしい姿を3歳児は表7に、5歳児は表8に示した。お寿司屋さんを開きたいと、5歳児が集まって準備を始めた。始めはテーブルを並べて、手作りの寿司を振る舞っていたが、本物のように動く回転レーンが作りたいたと、段ボールを切ってつくることにした。開店すると、やってきた3歳児を率先して案内する姿が見られた。3歳児も、興味をもって店にやってきては、自分で注文して出てくるのを待っており、始めは教師と一緒に店に行っていたが、そのうち自分たちで出掛けるようになってきた。3歳児がお客として来てくれるからこそ、やる気が高まり準備を進める5歳児と、5歳児の様子を見て、興味や憧れの気持ちをもって主体的に遊ぼうとする3歳児の姿が見られた。

表6 お店屋さんごっこの実際

- 5歳児の子どもたちが、お寿司屋さんを開いていることを、3歳児の保育室に知らせにきた。
A児(5歳児)「お寿司屋さんがありますよ。来てください。」
3歳児教師 「うみ組さんで、お寿司屋さんを開いているって。先生、お出掛けしてくるね。みんなも行かない？」
B児(3歳児)「ぼくも行く！」
C児(3歳児)「ぼくも」
- 興味をもった子どもたちが教師と一緒に5歳児の保育室へ向かった。
3歳児教師 「こんにちは。うみ組さんのお寿司屋さんに来ました。」
A児(5歳児)「どうぞ、こちらに座ってください。」
3歳児教師 「みんな、ここに座るんだって。」
D児(5歳児)「何にしますか？」
- A児たちがつくったメニュー表を見ながら教師が声を掛けた。
3歳児教師「ここにメニューがあるね。マグロやたまごがあるんだって。」
C児(3歳児)「じゃあ、ぼく、たまご！」
B児(3歳児)「ぼく、いか！」
D児(5歳児)「どうぞ！」
- B児らは、注文すると座って待ち、待っている間に、5歳児がお茶などが出した。しばらくして、注文したお寿司を受け取るとストローで作ったおはしを使って、食べた。(数日後)
A児(5歳児)「先生、くるくる寿司にしたい。」
5歳児教師 「どんなのがいいかな。」
- A児は紙にイメージ図をかくてやってきた。そこで、大きな段ボールに、段ボールカッターを交替で使ってドーナツ状の穴を切り取り、回転テーブルにした。
- お寿司屋さんは、回転寿司となり新装開店した。店員役の5歳児は、回転テーブルに寿司を載せ、手動で回していく。3歳児の子どもたちは、お店が開くのを楽しみに待ち、教師がいなくても回転寿司屋さんへ出掛け、ごっこ遊びを楽しんだ。

表7 お店屋さんごっこの中で見られた3歳児の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
ストローの箸を持って、寿司を食べようとする。	教師がいなくても、自分から年長児の寿司屋へ出かける。	友達と連れ立って寿司屋に遊びに出掛け、一緒にお寿司屋さんごっこを楽しむ。	年上の友達がしていることに興味をもち、自分から関わろうとする。	寿司屋に行った経験をもとに、食べたいものを注文する。
思考力の芽生え	自然との関わり	言葉による伝え合い	数量や文字、図形や標識等への関心感覚	豊かな感性と表現
今日も寿司屋が空いているか予想を立て、期待感をもちながら出掛ける。	海の生き物を思い出しながら、メニューを考える。	食べたいものを考え、自分で店員に注文する。	寿司屋の看板やメニューを見て、文字に意味があることを感じる。	周りの友達と寿司屋のイメージを共有し、見立てた寿司ネタを味わう。

表8 お店屋さんごっこの中で見られた5歳児の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
回転レーンに載せた寿司を落とさないように気をつけながら、回転レーンを回す。	大きな段ボールに穴を開けるために、交替しながら最後まで取り組む。	友達と協力したり役割を分担しながら、遊びを進めていく。	お客の立場になって、必要なものを準備したり、年下の友達に優しくしたりする。	自分が行った経験を思い出しながら、本物らしく再現しようとする。
思考力の芽生え	自然との関わり	言葉による伝え合い	数量や文字、図形や標識等への関心感覚	豊かな感性と表現
どうしたらお客が喜ぶか、本物に近い店になるか、考えて準備する。	どんな水の生き物がいるか考えながら、店に出すメニューを考える。	やってきたお客を案内したり、注文を聞いたりして接客をする。	大きさや形を考えて、回転レーンをつくったり、メニュー表にネタを書いたりする。	どんな回転レーンをつくりたいか、紙にかいて友達とイメージを共有する。

4.2. お店屋さんごっこと小学校の教科等とのつながり

4.1.で示したお店屋さんごっこと小学校の各教科等とのつながりを表9に示した。幼稚園でお店屋さんごっこなどのごっこ遊びは、生活経験を再現したり季節に合わせたものを取り入れたりすることから、主に、小学校生活科の「家庭と生活」「地域と生活」の学習へとつながっていくと考えられる。また、遊びの進め方について友達と考えを出し合い、話し合うことが国語の学習へともつながっていくと考えられる。更に、異年齢の友達と関わることは特別活動へ、年下の友達のことを思いながら準備することは道徳へともつながりが考えられる。店員とお客などに分かれてやりとりをしたり、どうしたらお客が喜んでくれるか考えながら店などの準備を進めたりするなど、幼稚園での充実した活動が、自分の生活や身の回りの地域について考える基礎を築くものとする。

表9 お店屋さんごっこと小学校の各教科等とのつながり

国語	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の働き 長音、拗音、促音、撥音などの表記 平仮名及び片仮名の読み書き 語彙を豊かにすること 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うこと 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を選ぶこと 伝えたい事柄や相手に応じた声の大きさや速さなどを工夫すること
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地域に見られる生産や販売の仕事(3年) 地域の安全を守る働き(3年) 生産の仕事と生活との密接な関わり 仕事の種類や工程を捉え、地域の人々の生活との関わりを考え、表現すること
算数	<ul style="list-style-type: none"> 数の構成と表し方 加法及び減法 身の回りにあるものの形 身の回りのものの大きさ 時刻と時間 数量の整理 量の単位と測定
理科	<ul style="list-style-type: none"> 季節と生物(4年) ものの溶け方(5年) 植物の発芽、成長、結実(5年)

生活	(2) 家庭と生活 家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする (3) 地域と生活 地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち適切に接したり安全に生活したりしようとする (5) 季節の変化と生活 (6) 自然や物を使った遊び 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする (8) 生活や出来事の伝え合い
音楽	表現 ・歌唱表現
体育	A 体づくりの運動遊び
家庭	A 家族・家庭生活 ・自分の成長と家族 ・家庭生活 ・家庭生活と仕事 ・家族や地域の人々との関わり B 衣食住の生活 ・食事の役割 ・調理の基礎 ・快適な住まい方 C 消費生活・環境 ・物や金銭の使い方と買い物
図画工作	A 表現 ・造形遊び 感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するか考えること 身近で扱いやすい材料や用具に慣れ、活動を工夫すること ・絵や立体、工作に表す 形や色を選んだり考えたりして、どのように表すか考えること 手や体全体の感覚などを働かせ、表し方を工夫して表すこと B 鑑賞〔共通項目〕 ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと
特別活動	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画 イ 学級内の組織づくりや役割の自覚 ウ 学校における多様な集団の生活の向上 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ア 基本的な生活習慣の形成 イ よりよい人間関係の形成 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解
道徳	A 主として自分自身に関する事 [善悪の判断, 自律, 自由と責任] B 主として人との関わりに関する事 [友情, 信頼] [相互理解, 寛容] C 主として集団や社会との関わりに関する事 [規則の尊重] [勤労, 公共の精神] [よりよい学校生活, 集団生活の充実]

5. 最後に

幼稚園では、子どもたちは自然や友達、材料など様々な環境に自ら関わりながら遊びを進めている。今回は、砂や水を使った遊びとごっこ遊びを取り上げ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点で整理することで多くの学びの姿が見られた。また、そうした遊びの中の学びは、小学校の各教科等とつながっていることを整理した。幼稚園での遊びを更に充実させ、子どもたちが自ら考え、友達と話し合いをしながら遊びを進める経験を重ねていくことが、遊びの中の学びと教科等とのつながりをより深めるためには大切であるとする。

参考文献

- 鹿児島大学教育学部附属幼稚園(2017). 遊びの中で育まれる子どもの学び(1年次)
鹿児島大学教育学部附属幼稚園(2018). 遊びの中で育まれる子どもの学び(2年次)
文部科学省(2018). 学習指導要領解説 東洋館出版社
文部科学省(2018). 初等教育資料6月号 東洋館出版社
文部科学省(2018). 幼稚園教育要領解説 フレーベル館